

第2次佐倉市産業振興ビジョン（案）に寄せられた意見と市の考え方について

(1) 意見募集結果

意見募集期間	令和2年3月 5日から 令和2年3月19日まで
意見募集結果	意見提出者数 1人 意見数 5件
意見に対する対応	意見を参考に案を修正したもの 1件 原案のとおりとしたもの 4件

(2) 意見の内容と市の対応

No.	提出された意見の内容	意見に対する考え方	案の修正の有無
1	12年という計画期間は、これからの加速度的な人口減少・高齢化による経済活動の縮小等を鑑みると、見直し時期を途中で設けたとしても長期すぎないか。	第2次ビジョンの期間は、上位計画である「第5次佐倉市総合計画」と計画期間を合わせ、2020年度から2031年度までの12年間としています。 ビジョンには、加速化する人口減少・高齢化等が産業に与える影響を考慮した課題整理を行った上で施策を位置付けており、今後は社会経済情勢の変化に柔軟に対応した見直しを行いつつ、計画を着実に推進してまいります。	無
2	また、上位計画（総合計画）には数字はでていないかもしれないが、12年後の産業面での推計（数字）が本計画書内にないため、書かれている施策の説得力に欠ける部分があるのではないか。	ビジョンの策定にあたっては、総合計画に示されている将来人口・高齢化に関するデータのほか、『中小企業白書』等で近年の動向を把握するとともに、事業所アンケート等において将来見通しや今後の動向等について確認しながら課題整理を行ったうえで施策の位置づけを行いました。 今後、具体的な事業を設計・実施する際には、これらのデータのほか、いただいたご意見を参考に、国や研究機関、大学等が行った将来推計（「未来カルテ」等）の情報も活用しながら検討してまいります。	無

No.	提出された意見の内容	意見に対する考え方	案の修正の有無
3	<p>目指すまちの姿として掲げた中で、12年後の目指す「にぎわい」のイメージがどのようなものを想定しているのか（定性的な数字か、定量的な数字か、主観的イメージか）</p>	<p>20 ページで示す〈目指すまちの姿〉における「にぎわい」は、産業の活性化、観光振興が図られたまちの状態をイメージしており、数値的に定義したものはございません。なお、令和2年度からスタートする「第2期佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における数値目標及び重要業績評価指標（KPI）を活用した令和6年度の目標値を定めており（39 ページ）、これを短期的な目標の1つとして、事業の推進を図ってまいります。</p>	無
4	<p>グランドデザインにおける施策について、今後12年の間に、観光（地域づくりとも連携）の担い手づくりをどのように行っていくのか、どうやって地域を巻き込んでいくのかのプロセスの記載が明確でない点が気になった。具体的には、策定の目的として「シビックプライドの形成」が掲げられている中で、地域の住民が佐倉市の歴史や文化を理解し、それを誇りに思い、訪れる観光客等を引き留め滞留、滞在させるような愛着を持つ担い手をどのフェーズでどのように育成していくのか、そのあたりの視点が計画内に必要ではないか。</p>	<p>グランドデザインを実現するためには、全体のマネジメントやマーケティングを担う組織や、その組織を支える人材を育成することが有効な手段の一つとなる可能性があると考えられることから、意見を採用し、以下の通り取組に追加いたします。</p> <p>取組74 観光の中核を担う組織づくりや人材の発掘・育成の検討</p> <p>関係機関と連携し、観光地域づくりの中核を担う持続可能な組織づくりやプラットフォームの構築等による人材の発掘・育成について検討します。</p>	有
5	<p>観光Wコア構想を掲げ、点ではなく面として観光を捉えていくという視点はすばらしいが、古民家（城下町）という視点では若干弱く、歴史的に見れば、酒々井町との連携は記載するべきではないだろうか。また、印旛沼についても、印旛沼流域かわまちづくり計画のスケジュールと合わせ広域の地域との連携について「戦略的重点取組」に明記してはどうか。（広域の視点をいれることは、広域の地域の人材との連携も自ずと取り組むことが必要であり佐倉市にとってメリットは大きいと感じる）</p>	<p>41 ページの取組70「他行政機関との連携強化」の中に、酒々井町や印旛沼流域かわまちづくり計画の自治体（八千代市等）も含んでおり、広域の視点で誘客を図ることとしております。取組70は、戦略的重点取組にも明記しており、古民家に限らず様々な取組について、周辺自治体等との連携を強化し、取り組んでまいります。</p>	無